



湾岸・アラビア半島地域ニュース

サウジアラビア：欧米人のコンパウンド居住制限 (4月22日付アラブニュース紙)

1. ジッダ市内の一部のコンパウンドでは、内務省からの情報を引用し、同コンパウンドに居住する欧米人に退去を命じている。
2. コンパウンドからの立ち退き通知には、「コンパウンドに居住する欧米人が10名以下の場合、彼らはもっと警備が厳重なほかのコンパウンドに移るべきである」とあり、サウジ内務省からの通知であるとされている。
3. しかし内務省のスポークスマンは、アラブニュース紙が入手した上記10名ルールについて強く否定すると共に、「外国人用コンパウンドはテロリストのターゲットとなっている地域と同じように、居住者を保護するための予防的警備体制がとられている」と述べた。
4. 匿名を条件内務省のある情報筋は、政府は公式には外国人を区別していないが、非公式には欧米人が多く居住するコンパウンドは、高度なセキュリティ維持のために精密に監視していることを認めた。それ故、予防警備対策を継続する重要性を再確認した文書を各コンパウンドの管理部門にもれなく発したと述べた。
5. 対してジッダでコンパウンドを経営する Faisal Al Qahtani は同内務省の発言に対し、「我々は内務省から欧米人が10名以下のコンパウンドは、現在警備のために配置されている警備部隊を引き上げるので、居住しているそれらの欧米人は政府により防護されているコンパウンドに移動する必要がある」と通知されたと異論を唱えている。
6. 公式には2003年のリヤドにおける欧米人襲撃事件以降、全てのコンパウンドはより高い安全を維持しなければならないとされている。しかし、そのための警備体制（高い壁、コンクリートブロック、ブレードワイヤー、武装警備員、監視カメラ等）にかかるコンパウンド側の負担も多く、コンパウンドの管理人は非公式には欧米人の住人だけをターゲットにしており、一旦欧米人が去るとそれらの警備体制を解体し、その分賃貸料を下げる等の処置を行っている。